

人工知能・AIのアルファゴが韓国の囲碁
世界王者を倒し、日本ではAIの書いた短編
小説が文学コンクールの一次審査を通過する
など、その進化が止まりません。未来学者の
レイ・カーツワイル氏によれば、今後は知能
だけでなく感性、創造性、芸術性を持ったA
Iも登場し、「2029年ごろにコンピューター
が人間の知性レベルに達する、もしくはは
凌駕する」そうです。彼ら専門家は、AIが
人間生活を向上させると信じていますが、A
Iは「人間の神に対する挑戦」と考え、これ
に注意を促す宗教家もいます。

確かに、AIが知能だけでなく感性や感情
創造性や芸術性まで持つてしまおうと、本当に
いつの日か人間はAIに超えられて、支配さ
れてしまおうのではないかという恐怖感も湧い
てきます。しかし、これまでも人間は、核
兵器や生物・化学兵器など人間にとって大変
危険な発明をしてきました。それらは今この
瞬間も危険な存在で、そのためそれらの管理

には常に注意が必要とされています。銃や刀など、もつと古い技術で生まれた道具も、多くの犯罪に使われており、自動車など、年間に多くの人間を交通事故で殺しています。元来、人間の発明する道具は危険なものだらけで、AIに始まったことではありません。人間は、危険性があっても自動車をなくそうとはせず、できるだけ安全性を高めようと。そしてその機能や交通制度を発展させてきました。AIは、そんな交通安全のために開発が期待されており、近い将来には交通事故を起こさずに自動運転する自動車や道路システムが生まれるでしょう。AIがどんなに賢くなつたとしても、人間はそれを道具として使用し、危険な要素を削除していくでしょう。便利な道具は危険な道具でもありませんが、危険がこの世界からなくなることなどありません。そうした危険を減らすためにも、人間はより優秀な道具AIを開発し、AIのある世界を楽しんでいけると僕は思います。